

## 第8章 計画の運用方針と目標値

### 8.1 計画の運用方針

居住や都市機能の誘導の実現には長い時間がかかることを踏まえ、本計画の目標年度を令和24年度（2042年度）とします。

本計画に基づき、各種施策を実施する中で、定期的に目標値の達成状況の検証・確認し、見直しや改善を図る「PDCA サイクル」を繰り返して、計画の実効性を高めます。

具体的には、概ね5年ごとに施策・事業の実施状況について調査、分析及び評価を行い、計画の進捗状況や妥当性等を精査、検討することとします。また、施策の効果と合わせて、誘導区域内の都市機能や人口等の変化に応じ、計画の見直しを検討し、内容の充実を図ります。また、社会情勢の変化や関連計画の変更等がある場合も、必要に応じて計画の見直しを検討します。



図 PDCA サイクルのイメージ

## 8.2 目標値の設定

本計画で目指すまちづくりの実現や実施される施策の効果について、定量的に評価するための指標としての目標値を下表のとおり設定します。

### (1) 「究極的に住みやすい町」の実現

基本計画のまちづくりの目標である「究極的に住みやすい・居住者に選ばれる町」に対して、町民が住みやすい、これからも住み続けたいと思えるまちづくりが実現できているか評価するため、目標値を下表のとおり設定します。

表 住みやすさに関する目標値

項目	現状値 (2022年)	目標値 (2042年)
住みやすいと感じている町民の割合	91% (とても住みやすい又はどちらかという と住みやすいと回答した人の割合)	91% (現状維持)
住み続けたいと感じている町民の割合	73%	80%
町内に居心地が良いと感じる場所があると回答した町民の割合	26%	30%

出典：御代田町のまちづくりに関するアンケート（現状値）

### (2) 居住誘導区域への居住誘導

本計画の誘導施策により、居住誘導区域内に住居の集積、適切な人口の誘導が実施できているか評価するため、目標値を下表のとおり設定します。

表 居住誘導に関する目標値

項目	現状値	目標値 (2042年)
居住誘導区域内の新築件数割合	77% (2016年－2020年)	80%
居住誘導区域内の人口密度	15人/ha (2020年)	15人/ha以上
都市機能誘導区域内の人口密度	15人/ha (2020年)	20人/ha

出典：国立社会保障・人口問題研究所（現状値）

### (3) 都市機能誘導区域への施設誘導

本計画の誘導施策により、都市機能誘導区域内に誘導施設の適切な集積、維持ができていますか評価するため、目標値を下表のとおり設定します。

表 施設誘導に関する目標値

項目	現状値	目標値 (2042年)
都市機能誘導区域内の 食料品小売店（スーパー・コンビニ・ ドラッグストア）の立地件数	5件 (2022年)	5件（現状維持）
食料品小売店（スーパー・コンビニ・ ドラッグストア）徒歩圏の 居住誘導区域内人口カバー率	82% (2020年)	82%（現状維持）

出典：庁内資料、国立社会保障・人口問題研究所（現状値）

### (4) まちなかの魅力及びまちなかへのアクセス性の向上

交通機関、道路の利便性や、まちなかを魅力ある滞留空間として活用できているか評価するため、目標値を下表のとおり設定します。

表 まちなかの魅力やまちなかへのアクセス性に関する目標値

項目	現状値	目標値 (2042年)
鉄道駅利用者数	1,592人 (2019年)	1,600人
鉄道利用頻度 (年1回以上利用する人の割合)	44% (2022年)	50%
公園利用頻度 (年1回以上利用する人の割合)	54% (2022年)	60%
まちなかへ移動しやすいと 感じている町民の割合	78% (2022年)	80%
まちなかに魅力を感じている町民の割合	51% (十分に魅力を感じている＋魅力は感じているが改善の余地はある) (2022年)	60%
まちなかの道路を安全だと 感じている町民の割合	65% (2022年)	70%

出典：御代田町のまちづくりに関するアンケート（現状値）

### (5) まちの持続性・安全性の向上

高齢化の進行が予測されるなか、安心して暮らせるまちづくりが実施できているか評価するため、目標値を下表のとおり設定します。

表 まちの持続性や安全性に関する目標値

項目	現状値 (2022年)	目標値 (2042年)
将来の交通へ不安を感じている町民の割合	87%	80%
いざという時に頼れる人がいる町民の割合	82%	90%
通学路や道路を安全だと感じている町民の割合	61%	70%

出典：御代田町のまちづくりに関するアンケート（現状値）

### (6) 計画運用段階での町民参加

本計画に示したまちづくりの目標の実現に向けて、町民の主体的な参画や連携を図りながら、定期的に住民の声を聴いて、計画内容の評価・検証、取組内容の充実・強化など計画のフォローアップを行うため、目標値を下表のとおり設定します。

表 町民参加に関する目標値

項目	現状値 (2022年)	目標値 (2042年)
計画に関する説明や意見聴取の機会（回数）	—	2年ごと1回以上